


学習指導改善調査 実践モニター 実施計画書

私のプロフィール		
氏 名	杉崎 弘周	
勤務先	村上市立瀬波小学校	
○実践教科：国語		

★取組の方向

私の教育理念	<p>「授業の主役は教師・学びの主役は子ども」がモットー。</p> <p>「教えて考えさせる授業」が理想の授業。</p> <p>「子どもたちがやさしさと寛容さをもって学び合うこと」が理想の学び。</p> <p>有名な実践家を真似た学級目標は以下の通り。</p> <p>(知) 「もっとの意欲」でこころワクワク</p> <p>(体) 「自分らしさの誇り」でからだグングン</p> <p>(徳) 「あたたかさの土壌」でひとにニコニコ</p>
学級の実態	<p><話すこと・聞くこと></p> <p>毎朝のスピーチを行い、経験したことや思ったことについて、筋道を立てることに気をつけながら話してきた。適度な声の大きさや適切な速さで話すことができるようになってきているが、しっかりと筋道を立てて話すことができる児童は少ない。話の中心に聞くときには、質問をすることをめあてに、中心に気をつけながら聞いてきた。話の中心に関係したよい質問をすることができる児童が数名いるので、この児童をモデルに聞き方や質問の仕方の力を高めている。</p> <p><書くこと></p> <p>これまでに、3年上の「おもしろいもの、見つけた」で、伝えたいことがきちんと読み手に伝わるように、事柄ごとに段落を分け、互いの順序を考えて書いてきた。3年下の「せつめい書をつくろう」では、書く必要のある事柄を選択する活動を経験した。また、総合的な学習の時間や特別活動と関連させて、経験したことや思ったことを「始め」「中」「終わり」の構成によって150字程度の文章にまとめる活動をしてきた。150字程度ならば全ての児童が抵抗なく書くことができる。ところが、記述の内容に差があり、段落のまとまりを意識せずに改行している児童が半数ほどみられる。</p> <p><読むこと></p> <p>朝学習の読解ドリルやワークテストを使った取組みによって、説明的文章での読み取りにおいて、ほぼ全員が「問い」に対する「適切な形」で答えることができるようになってきた。自分が文章を書く時には、「5W1H」を意識しながら、大切なことを落とさずに書くことができる児童は、クラスの1/3程である。</p>
今後の指導の方向	<p>すべての教科に応用することができる「話す・聞く方法」「書く方法」「読む方法」を習得させるために、身に付けさせたい技術を取り上げて指導する。教材の特性を考え、ひとつの単元でどのような力を付けるかを意識しながら実践していく。</p> <p>物語文の指導を例に挙げると、(1) 登場人物と中心人物を押さえる (2) 事件 (出来事) を探す (3) 物語の主題を一文で表現する という技術を身に付けさせるようにする。</p> <p>この際、「登場人物」や「中心人物」という用語の定義や見つけ方をしっかりと説明し、全ての子どもが同じ基準で読むことができるようにする。事件 (出来事) については、「人物の変容に大きくかわかる出来事」を「事件」として取り上げる。(1) (2) を経て、物語を一文で表現させる際には、「～が～によって～する話」「～が～によって～になる話」という要約の型とする。この活動を通して、作品の重要な「中心人物」「中心人物の心の変容」「作品のテーマ」「どんな出来事によって変わったのか」を表現させる。しっかりと作品とかかわらせることですべての学習の基礎となる読解力を付けていく。</p> <p>以上のような学習の中で、ノートに個人の「読み」を「書き」、個人の「読み」をめぐって「話したり」「聞いたり」する。身に付けさせたい技術を明確にしてもち、「話す・聞く」「書く」「読む」という国語の力が独立して成り立つのではなく、重なり合って高まっていくのだという考えの下に指導していく。</p>